模擬授業指導から考える

理論と実践の関係と教師教育者の専門性

斉藤仁一朗（東海大学）jsaitoh@tokai.ac.jp
後藤賢次郎（山梨大学）kgotoh@yamanashi.ac.jp

学校教育における模擬授業指導をめぐる論点争点：社会科教員養成を例に

- **「実際に授業ができるようになること」と「研究上の裏付け・根拠」のずれ，不在**

- **類型１，２：**
  実際に（模擬的ではあるが）やってみることで得られるスキルや雰囲気は，身体を通して知識と技術を繋ぎ合わせる重要な価値があると捉えることができる（生田・北村，2011）。
  ドラマ的な授業展開には，Art & Technologyが必要（石井，2020）。

- **類型３：**
  社会科の授業作り・実践の理論的な側面と実践的な側面の接続を図るものとして，模擬授業位置づけようとはしている

スキルや雰囲気は，授業を実践する上では欠かせないものだが，これまで研究上蓄積されてきた，社会科の授業作り（社会をどう捉えさせるか，育成を目指す市民（の持つ力）をどう捉えるかに基づく）との接続が不明確。

社会科教育「研究」と教員養成との相性の悪さ

- 複数の学問に跨り，時の政権の意向や社会の動きに影響を受けやすい
  ➡「学」として自立するために，科学化を目指す過程で，学習指導要領や現行教育制度に対抗的なスタンスで研究が蓄積されてきた（内海，1971；社会認識教育学会，1978；森分，1983，1999；草原，2011など）。**免許法，指導要領等制度を前提とする教員養成と社会科教育研究は，バチバチの関係**（今は違う…たぶん）。

皆さんの分野では，教師・指導者の成長・育成に関する実践・研究と，教育制度はどのような関係でしょうか。その関係が，模擬授業指導に何か影響を与えていることはありますか。

社会科教育研究と”実際にやってみる”模擬授業指導との相性の悪さ

- （指導要領や現行制度を相対化すると）社会科の目的や目標，社会や市民の捉え方に基づく教科観形成と，それらを踏まえた理想的・原理的な授業「プラン」作成に重きが置かれた研究・実践が多くなっていく。

→学校現場の実態（自明になっている，お題目，経験知，感覚知，教育観や（学校の目標が合格率を上げよう！などの）学習方法）**を相対化できる力を育んでおく点では，教員養成段階で理論的・原理的なことに傾斜するのは，一定の意義がある。**（大坂，2016）
➡反面，実際にやってみること，できること＝模擬授業は周辺に置かれる。極端には，現場に丸投げを助長するかも知れない。

- **模擬授業指導もしてはいるけれど…**

- **プランを立てるだけでなく模擬授業指導をしている教員も多い。**ただ，教員によって程度は違うとはいえ，

①実際の教科書の範囲や時数，子どもの実態はさておき，教科の目的・目標である育てたい資質能力などからトップダウン的に構想する

②（実現できるかよりも）それまでに学んだ授業作りのための理論で授業＊を作るとどうなるか，作れるかどうかと，授業プランを作ること自体に重きを置く

③板書やプリント・資料の見やすさ，声かけ，生徒役の学生への反応といったテクニカルで一回性のものからも結果的に学ぶが，検討会では，授業の目的・目標に対して内容・方法は妥当であったか，他に何があり得たか，授業の導入・展開・終結の全体構造に議論の焦点を当てる。理論が体現されているという前提がある。最悪，プランだけ見ても言えそうなコメントをする（後藤個人の見解です）

④以上を通して，（もちろん現場の実態に合わせた指導をするのだけれど，最低限）ブレない軸のようなものを形成する

といった側面がある。つまり，**模擬授業の目的としては，実際に授業ができるようになることよりも，（現場に流されない）理想的な授業像を体得することに傾斜している。**（受講人数が限定的な＝教科ごとに分けられた中等ベースのコースの科目であることも，一因かも）
➡１０分だけ切り取るような模擬授業とは相性が悪い。

＊授業の原理，理論とは…

社会科教育界隈（？）でもとても多義的。例えば，後藤の担当科目の一つでは以下の「1」に近いし，斉藤さんの担当科目では「3」に近い。
他にもあるかも知れない・・。

1. **社会科の，ある一つの目的・目標とそれを達成するための教育内容，学習活動を一体的に説明したり，単元・授業の導入・展開・終結として構成していくための枠組みようなもの**（例：探求学習，共感・理解型，社会科学科，社会問題科…など様々な名称がある）。それらの中には，縦横の軸によるマトリクスに位置づけてられて，体系的に説明されているものもある。

2. さらにそれらの背後にある，**社会科学の哲学的な概念**だったりもする。

3. 一方で，もっとミクロで具体的かつ実践的に，**教材や発問等の種類とそれぞれの役割，機能を整理する際の括りのようなもの**だったりもする。

- 社会科教員養成の場合…
  学校現場など教育臨床の場ではないところでこそ，理論的・原理的なことを学ぶのか，実際にやってみる模擬授業を行うのか。これをめぐっては，研究や理論・原理が果たしている役割と，現場で求められる実際的な経験知，感覚知に基づくスキル等との間にある，緊張関係が指摘できる。

- 皆さんの分野でも，研究の知見や理論・原理が，教師・指導者が教育臨床の場の実態に入り込む／距離を取る上で何か役割を果たしているかと思いますが，この点，いかがでしょう。

参考文献

- 草原和博（2012）「日本の社会科研究の方法論的特質」『社会科教育論叢』48, 97-108.
- 森分孝治（編）（1999）『社会科教育学研究　方法論的アプローチ入門』明治図書.
- 森分孝治（1983）「教科教育学の領域と方法」『教科教育学会紀要』2号,13-18.
- 大坂遊（2016）「教職課程入門期における社会科教員志望学生の社会科観・授業構成力の形成過程とその特質」『社会科研究』 85, 49-62.
- 社会認識教育研究会編（編）（1978）『社会認識教育の探求』第一学習社
- 内海巌（編）(1971)『社会認識教育の理論と実践』葵書房.